

# SIビジネス 勉強会

## ～お客様のソーシングを支える富士通のSI～

2010年12月21日

富士通株式会社

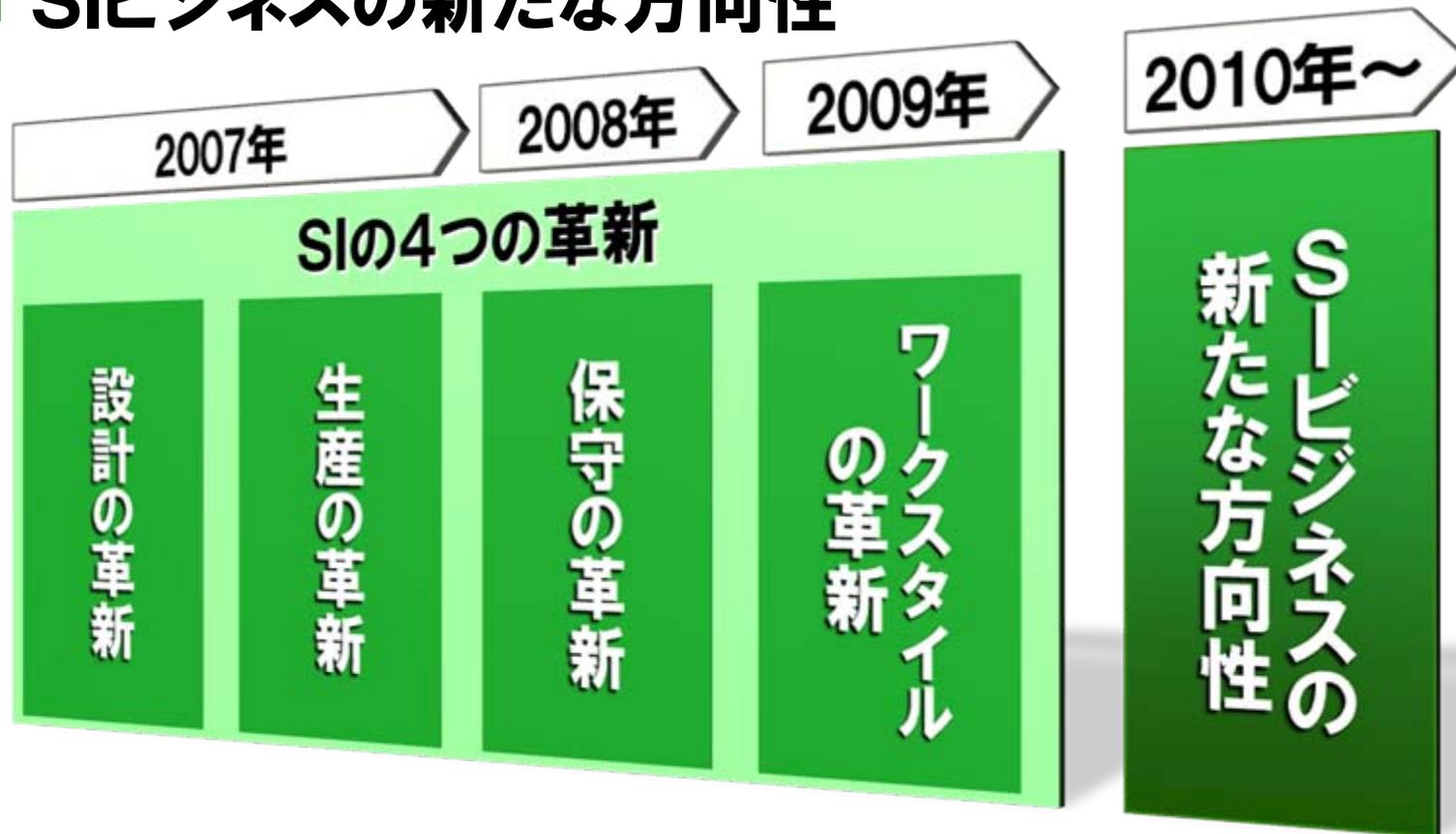
テクノロジーサポートグループ

システム生産技術本部

本部長 柴田 徹

# 本日の主旨・位置づけ

- 2007年以降の「SIの4つの革新」の更なる進化
- SIビジネスは今後も富士通の主力事業
- SIビジネスの新たな方向性



**富士通のSIビジネスの考え方**

**既存システムの問題に対する解決策**

**ICT利活用によるお客様の企業競争力強化**

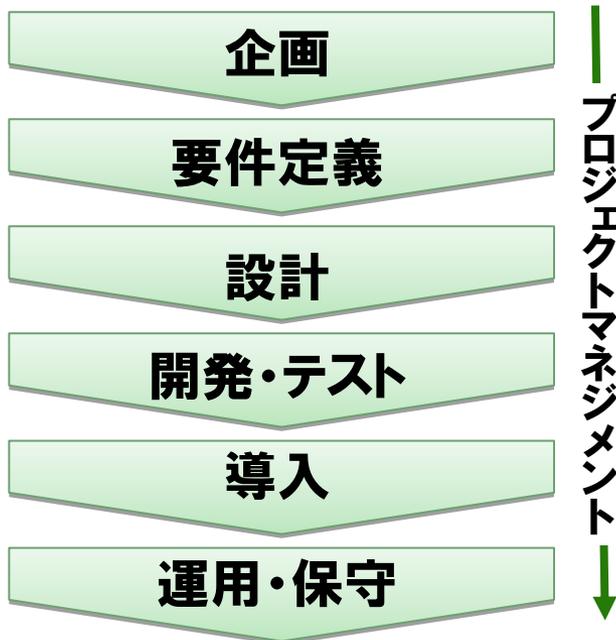
# SIビジネスの考え方

# 一般的なSIの定義

## ■ 一般的なSI＝“システムインテグレーション”

ハードウェア、ソフトウェアなどを用いてコンピュータシステムを構築すること。または、企業のシステム構築や運用・保守などを一括して請け負うサービス事業

### システム構築の流れ



### システムの構成要素

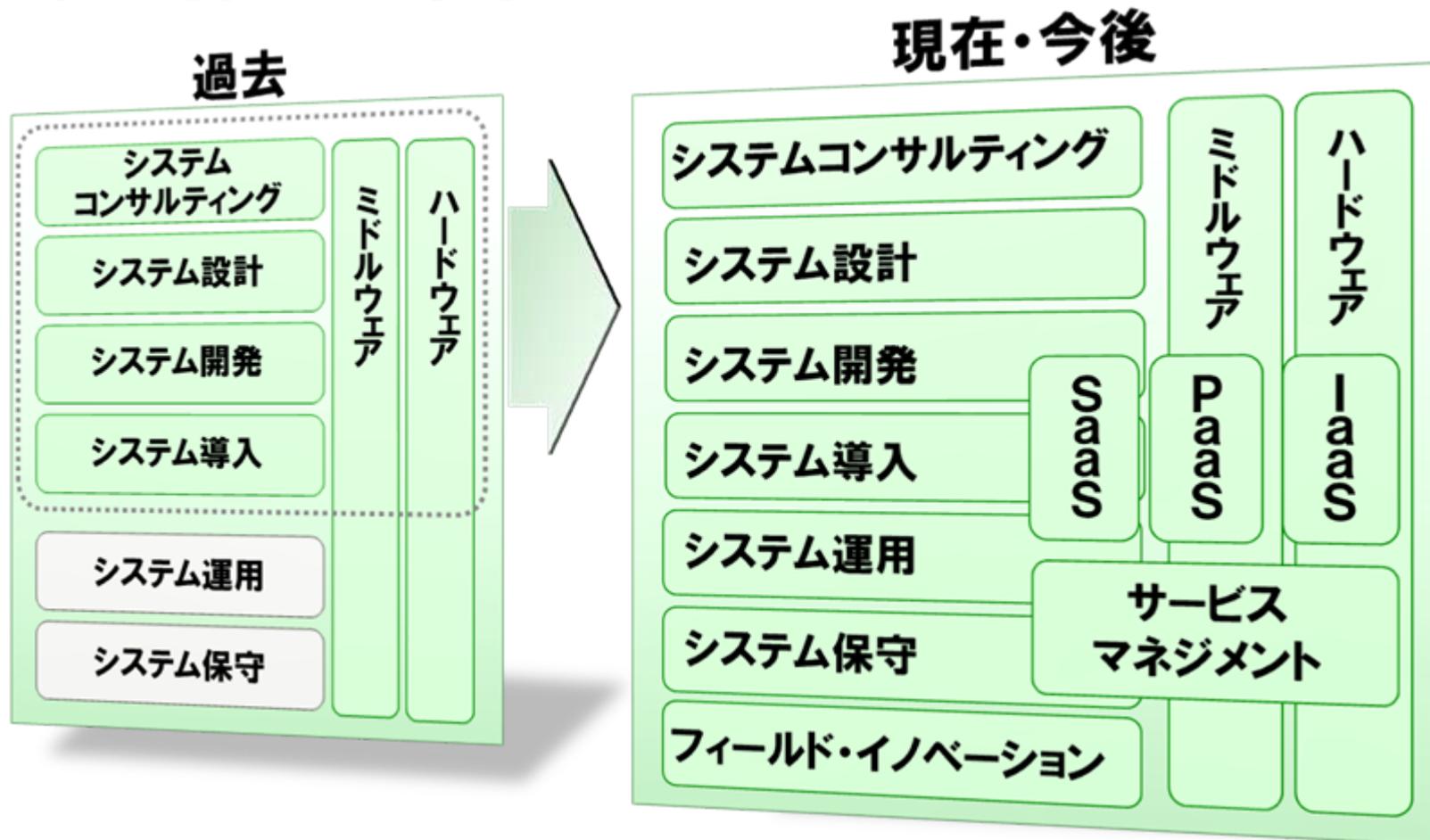


# コンピューティングモデルの変遷

## ■ 個別最適化から全体最適化へ

	～1980年代	1990年代～	現在・今後
お客様 (IT部門) ニーズ	<b>定型業務の 自動化・効率化</b> (大量データ処理)	<b>オープン化と 部門システム化</b> (業務個別最適化)	<b>ガバナンスと 全体最適化</b> (低コスト、柔軟性)
コンピューティング モデルの変遷	<b>メインフレーム 特注型の アプリケーション開発</b> 	<b>オープンシステム 汎用パッケージ・ツールと サービスの組み合わせ</b> 	<b>クラウド 既存システムとの共存 ビジネス変化への適応</b> 

- システム構築から運用・保守まで多様な製品・サービスの組み合わせで提供



## 先進技術を駆使したフル・インテグレーション

### 東京証券取引所様 [arrowhead]

世界最高水準の高速化を実現した取引所システム

- 自社製品によるトータル提供      基幹IAサーバ、専用ミドルウェア
- 先進技術を導入                      高品質・高稼働性

## 超大規模レガシーマイグレーション

### 富士通（社内システム） [FALCON:受発注システム]

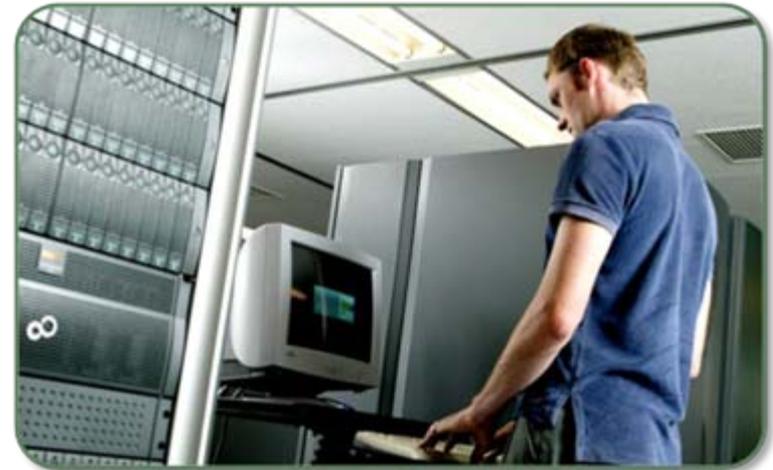
業務を止めずにレガシーを克服した営業系基幹システム

- 大規模・複雑化したシステムのスリム化 1279種のインタフェース→61
- 業務プロセスを維持し、ERPパッケージを使って構築

# ICTに関するお客様の課題

# お客様が抱える課題

## ■ 事業活動とICT利活用における**目的意識のギャップ**



### 経営層

- ・企業競争力強化
- ・業務効率化
- ・ICTコスト削減

### 事業部門

- ・ビジネス強化

### IT部門

- ・複雑化への対応
- ・既存システムの運用保守の負担軽減

ギャップ

# お客様のICT利活用のあるべき姿

## ■ 企業競争力強化のためのソーシング(調達)



### 競争力／事業強化

#### 経営層

- ・新たな競争優位創出

#### 事業部門

- ・事業のスピード向上
- ・顧客ニーズへの対応

### ソーシング

### ICT効率化／事業貢献

#### IT部門

- ・複雑化の克服
- ・経営層・事業部門の要求への対応

# 富士通の解決策の提示

## お客様のソーシングを支える富士通のSI

## ■ お客様のソーシングを支える富士通のSI

### 1. クラウドの進展による複雑化への対応

現状 : システム構成要素の多様化による組み合わせ複雑化

解決策 : お客様の利用目的・形態に適合するICTの提供

### 2. 既存システムに対する解決策

現状 : 老朽化したシステムをそのまま再構築

解決策 : 既存システムの再利用や利活用を考慮した最適化提案

### 3. ビジネス活動との連動

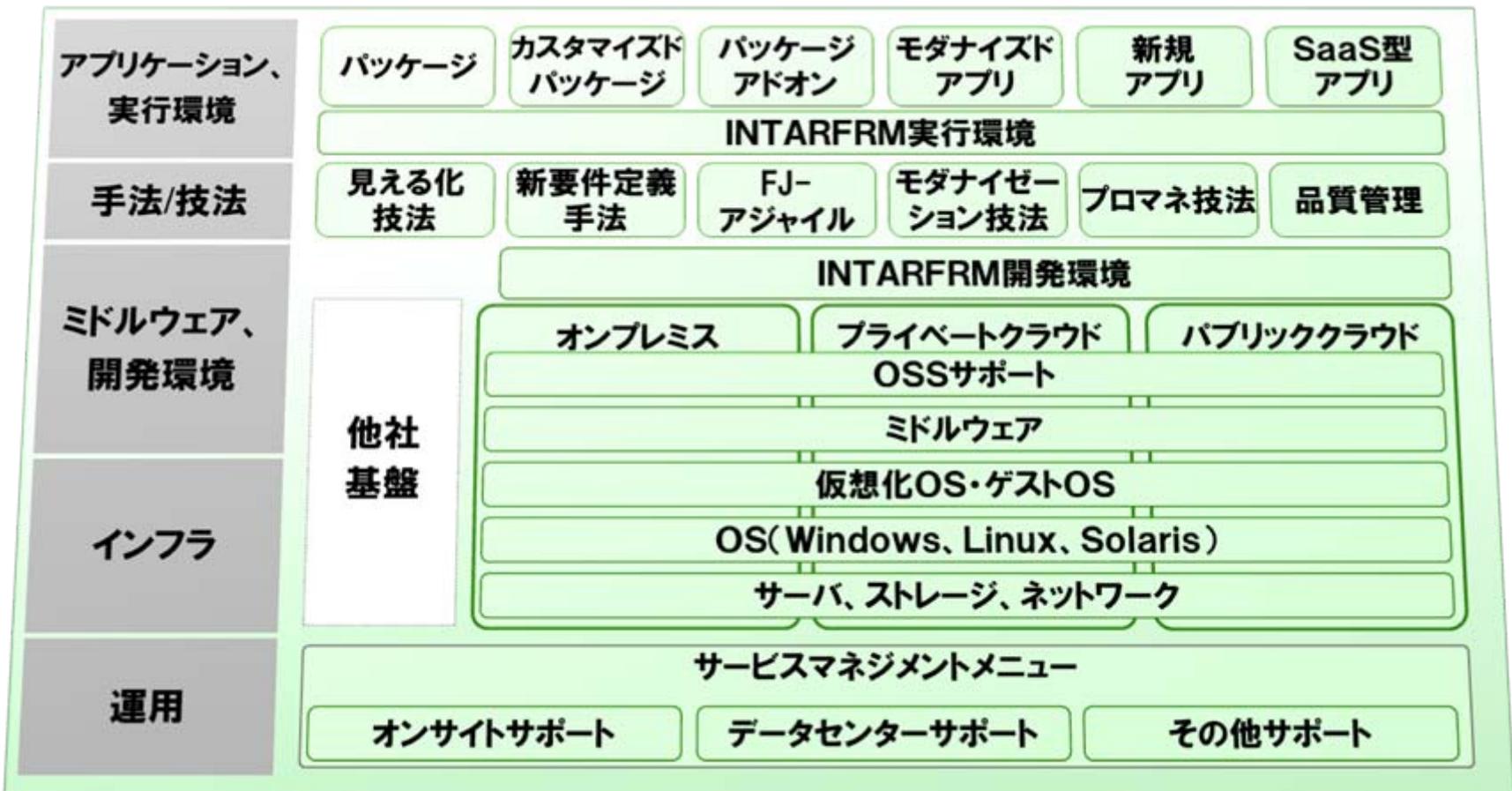
現状 : 部門ごとに構築されたシステム

解決策 : 事業的観点での全体最適化

# 1. クラウドの進展による複雑化への対応 FUJITSU

- お客様のシステム構築パターンを全て網羅
- 利用目的・形態に合わせた製品・サービスの提供

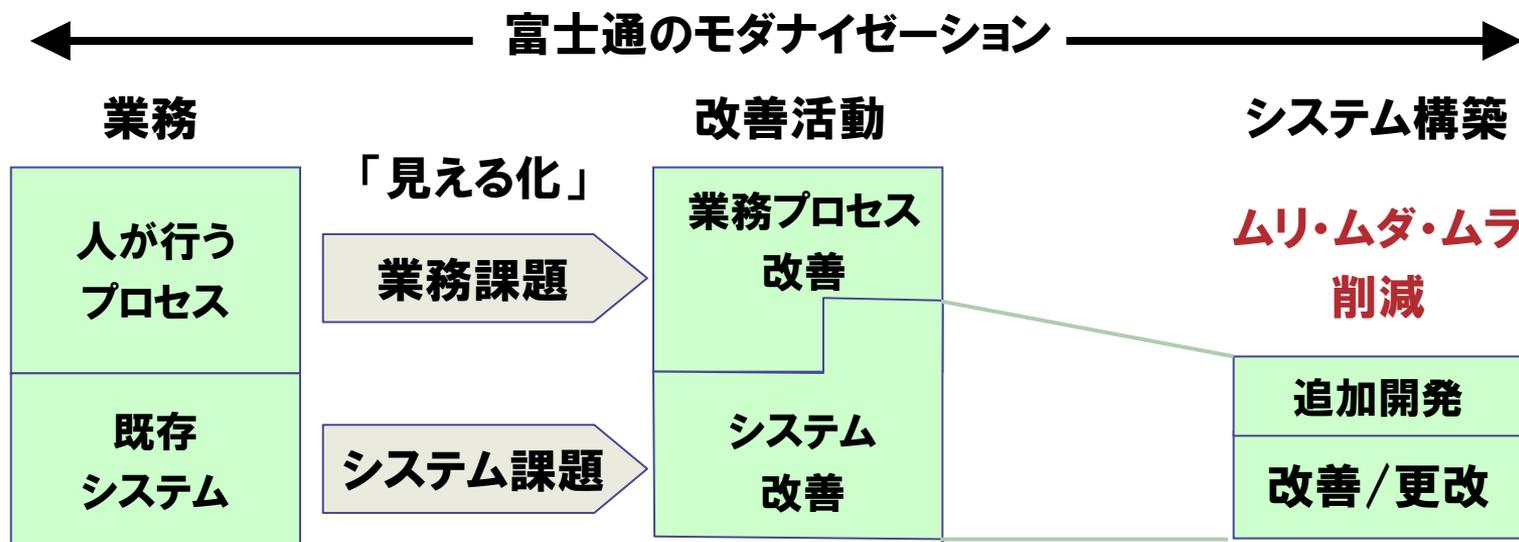
[ お客様の最適なシステムやクラウド環境を実現する富士通の製品・サービス ]



## 2. 既存システムに対する解決策

### ■ 社内実践で確立した最適化技法（モダナイゼーション）

- お客様の業務プロセスと既存システムをスリム化・最適化
- 「業務効率化」と「競争力強化」のための機能追加
- リスクコントロールとガバナンスを担保



# 3. ビジネス活動との連動

- **ビジネスニーズを満たす全体最適なシステムを実現**  
お客様のビジネス活動や業務に着目し、見える化  
(フィールド・イノベーション)



お客様のシステム構築

フィールド・  
イノベーション



お客様のビジネス活動

## 1. クラウドの進展による複雑化への対応

当社製品だけでなく、他社製品やOSS※等も含む、  
全てをカバーしたシステム構築・運用・保守

## 2. 既存システムに対する解決策

業務プロセスまで踏み込みシステム全体をスリム化・  
最適化するモダナイゼーションを社内実践で確立

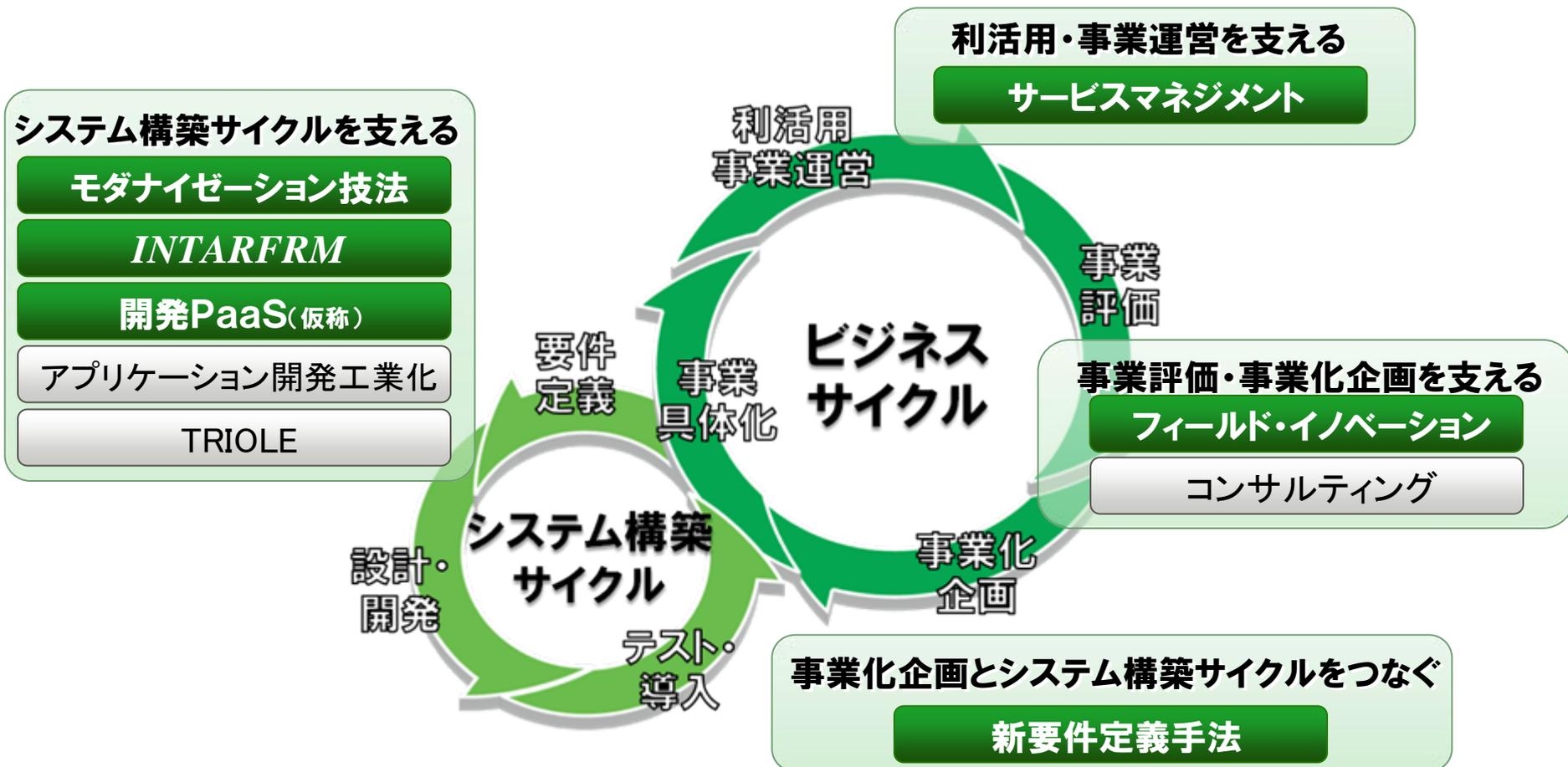
## 3. ビジネス活動との連動

現場中心でお客様を支えてきた経験・ノウハウと  
それらを進化させたフィールド・イノベーション

# お客様のソーシングを支える キーテクノロジー & キーメソッド

# キーテクノロジー & キーメソッド

## ■ お客様のソーシングを支える当社独自の技術と手法



# 概要・特徴

キーテクノロジー & キーメソッド	概要・特徴	提供
①新要件定義手法	経営・業務・システムの要件を5階層に分けて整理し、お客様の要件定義の精度を高める新手法	提供済
②モダナイゼーション技法	既存システムを見える化し、利用目的に適したアプリケーションの移行・運用・保守を可能にする最適化技法	提供済
③INTARFRM <small>インターファーム</small>	既存アプリケーションを有効活用し、クラウド環境にも対応できるアプリケーションの開発・実行のためのフレームワーク	提供済
④開発PaaS(仮称) <small>パース</small>	安全・短納期・高品質なソフトウェア開発環境を提供するクラウドサービス	社内 トライアル
⑤サービスマネジメント	運用現場における実践プロセスの体系化から、効果的なICT利活用と事業運営を実現するシステム運用・保守サービス	提供済
⑥フィールド・イノベーション	お客様の現場における「人」「プロセス」「ICT」を見える化することで本質的問題を見極め、お客様とともに課題解決を行う	提供済

# ①新要件定義手法

## ■ 新要件定義手法

経営・業務・システムの要件を5階層に分けて整理し、お客様の要件定義の精度を高める新手法

- 年間20,000プロジェクトの現場で培ったノウハウに基づく「要件合意プロセス」
- 厳選した38項目から成り、要件の成熟度を適宜可視化する「要件評価軸」

## ■ お客様のメリット

- 経営層: 開発に入る前に、高精度な効果予測によるIT投資判断
- 業務部門: 業務の目的に適合したICTの調達
- IT部門: 手戻りを最小限にし、QCD※目標を達成するマネジメント



※QCD: 品質(Quality)、価格(Cost)、納期(Delivery)

# ②モダナイゼーション技法

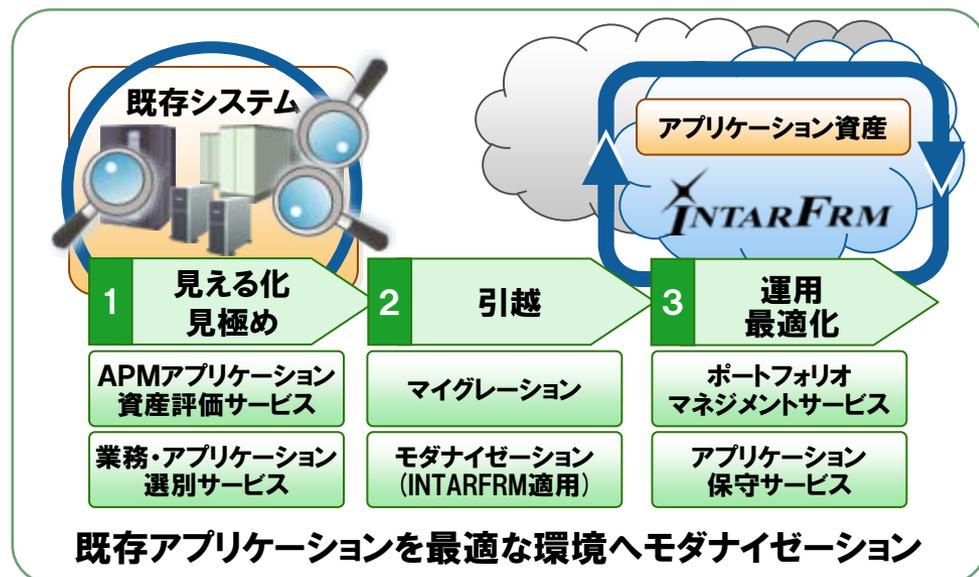
## ■ モダナイゼーション技法

既存システムを見える化し、利用目的に適したアプリケーションの移行・運用・保守を可能にする最適化技法

- 既存システムの多角的な見える化と分析評価に基づく最適なシステム環境の見極め
- 長年培った豊富な実績を誇るアプリケーション運用保守プロセスとツール

## ■ お客様のメリット

- 既存アプリケーションを最大限に活用し、短期間、低コストでシステムを再構築
- ICTシステム全体の最適化により、運用コストを削減し、サービスレベルを向上
- 運用・保守プロセスの最適化による長く使えるシステムを実現



# ③INTARFRM

インターファーム

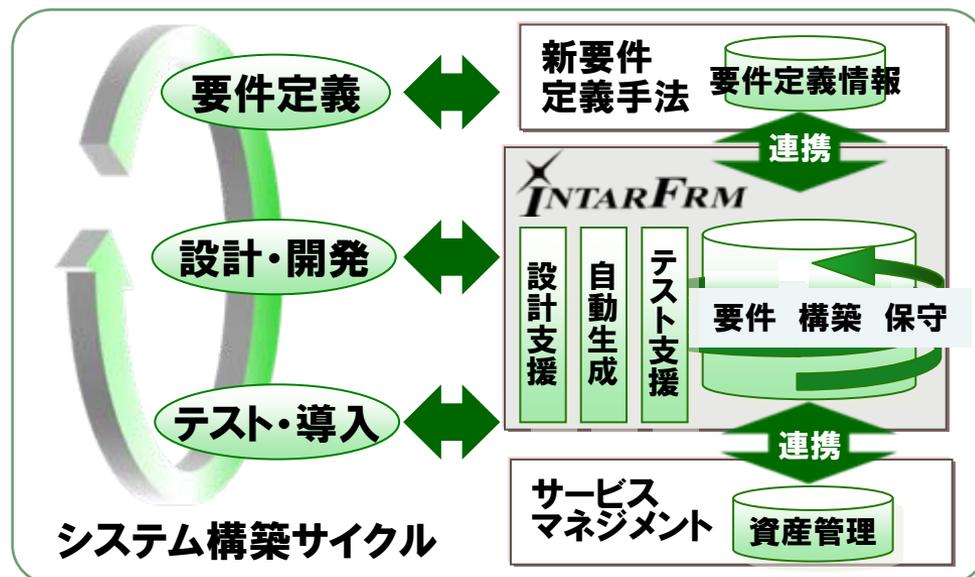
## ■ INTARFRM

既存アプリケーションを有効活用し、クラウド環境にも対応できる  
アプリケーションの開発・実行のためのフレームワーク

- インフラ、技術の変化に依存せず、ビジネス環境の変化に対応した開発が可能
- 富士通グループのノウハウによる徹底した標準化により、高品質、短納期の開発を実現

## ■ お客様のメリット

- お客様ニーズの確実な実現と品質向上
- インフラのライフサイクルに依存しない、アプリケーションの長期利用が可能
- 運用保守へのリソースを大幅に削減し、企業競争力強化に集中できる



# ④ 開発PaaS(仮称)

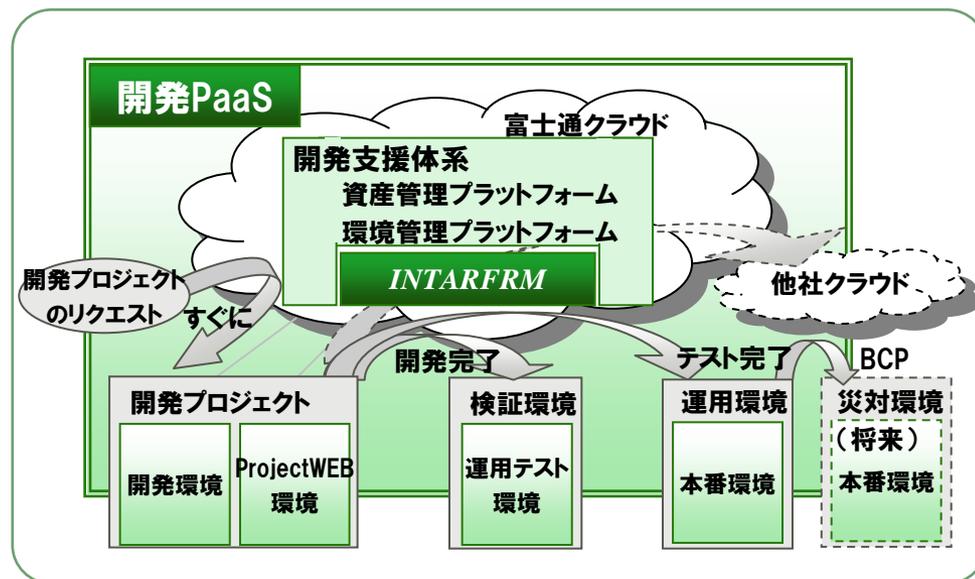
## ■ 開発PaaS(仮称) <sup>パース</sup> [社内トライアル中]

### 安全・短納期・高品質なソフトウェア開発環境を提供するクラウドサービス

- INTARFRM をベースにした富士通標準開発環境をオンデマンドで提供
- お客様の開発資産を代行管理し、開発資産のライフサイクルを長期的にサポート

## ■ お客様のメリット

- 既存人員の開発スキルで、安全・短納期・高品質な開発が可能
- 事業環境に応じて運用環境を自由に選択・変更可能
- 富士通のセキュアな開発環境で世界中の人々とも安心して共同作業が可能



# ⑤ サービスマネジメント

## ■ サービスマネジメント

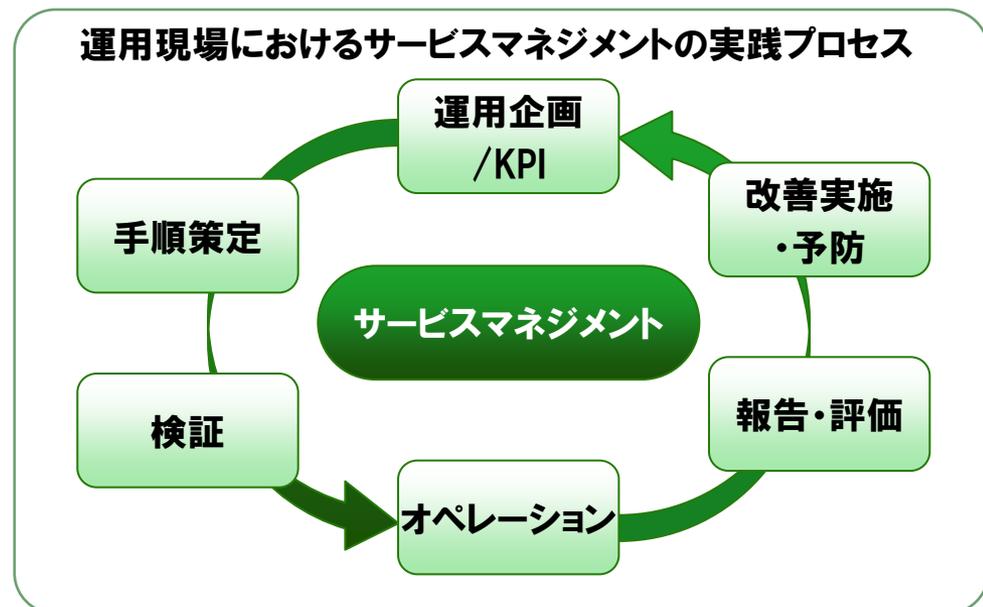
システム運用現場における実践プロセスの体系化により、効果的なICT利活用と事業運営を実現するシステム運用・保守サービス

- 166種類の作業項目を分かりやすく定義、お客様と各ベンダとの作業範囲を明確化
- サービスマネージャーが企画・開発段階から加わりスムーズな運用サービスを実現

## ■ お客様のメリット

- 運用現場に自律・継続的改善プロセスが定着し、効果的なICT利活用を実現
- 世界標準の運用モデル(ITIL※)を現場に適用可能
- やるべき作業を明確化し、効率的な運用・保守が可能

※ITIL: ITサービスマネジメントのベストプラクティスを集めたフレームワーク



# ⑥ フィールド・イノベーション

## ■ フィールド・イノベーション

お客様の現場における「人」「プロセス」「ICT」を見える化することで  
本質的問題を見極め、お客様とともに課題解決を行う活動

- 2007年、業務に精通したプロフェッショナル集団「フィールド・イノベータ」を新設
- 実務経験と体系化された手法により、お客様の業務課題を見える化

## ■ お客様のメリット

- 第三者視点による気づき
- 現場の自律的な改革意識
- 具体的な改善成果

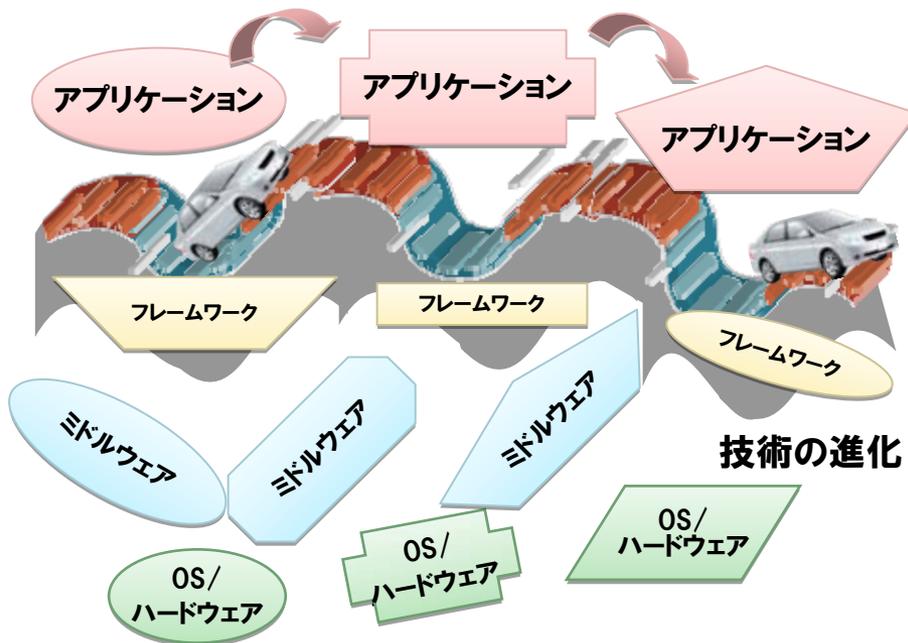


## ■ インフラに依存しないアプリケーションの成長・長期利用

### INTARFRMが全てをつなぐ

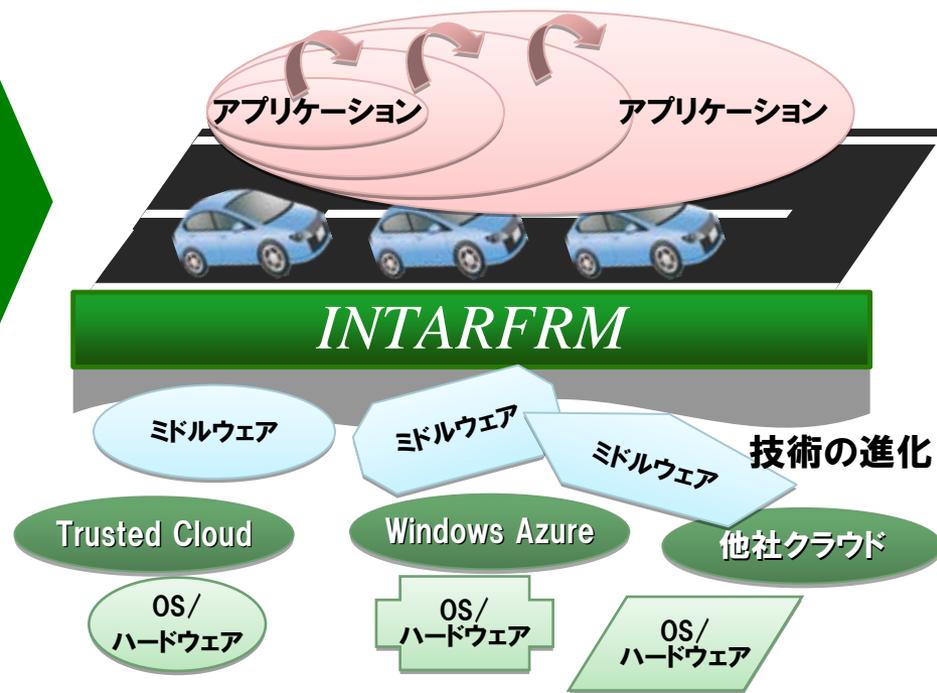
これまで:アプリケーションの作り直し

ビジネス環境の変化



これから:アプリケーションの成長

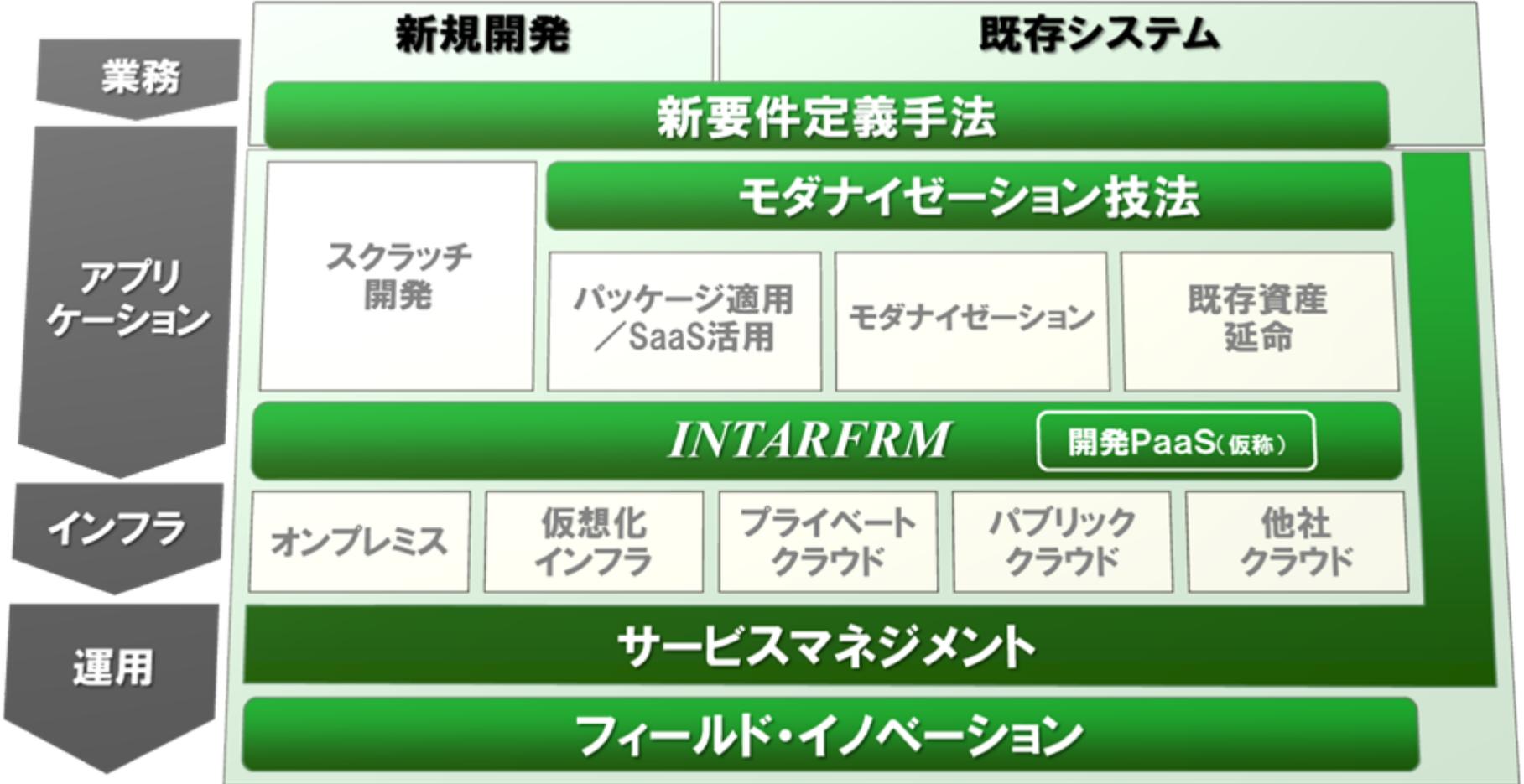
ビジネス環境の変化



# 本日のまとめ

# お客様のソーシングを支える富士通のSI

■ お客様の業務からシステム構築・運用・保守までを支える富士通独自の最新技術と手法を提供



# 富士通の今後のSIビジネス

- 企業競争力強化のためのICT利活用が成長領域
  - ビジネスサイクルのスピードアップを支援
  - ビジネス起点からのシステム構築



## shaping tomorrow with you

社会とお客様の豊かな未来のために

**技術の変化・多様化・複雑化を気にせず、  
必要なときに、必要なICTが調達できる**

**老朽化した既存システムの問題を解決し、  
ビジネスそのものに集中できる**

**企業競争力強化のために、ビジネス要件を充足する  
成長可能なICTを調達できる**



**FUJITSU**

shaping tomorrow with you

# 免責事項

このプレゼンテーション資料、及びミーティングで配布されたその他の資料や情報、及び質疑応答で話した内容には、現時点の経営予測や仮説に基づく、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述において明示または黙示されていることは、既知または未知のリスクや不確実な要因により、実際の結果・業績または事象と異なることがあります。実際の結果・業績または事象に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます(但しここに記載したものはあくまで例であり、これらに限られるものではありません)

- 富士通の提供するサービスまたは製品にとって主要な地域(アメリカ合衆国、EU諸国、日本、その他アジア諸国など)のマクロ経済環境や市況動向。中でも当社顧客のIT支出に影響を及ぼすような経済環境要因。
- 急速な技術変革や顧客需要の変動。及び富士通が参入しているIT市場、通信市場、電子デバイス市場での激しい価格競争。
- 他社との戦略的提携や、合理的条件下での他社との取引を通じて、富士通が特定のビジネスから撤退し、関連資産を処分する可能性。およびこのような撤退・処分から発生する損失の影響。
- 特定の知的財産権の利用に関する不確実性。特定の知的財産権の防御に関する不確実性。
- 富士通の戦略的提携企業の業績に関する不確実性。
- 富士通の保有する国内外企業の株式の価格下落が、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表に与える影響。およびこの保有株式の株価下落により発生した富士通の年金資産の評価減とこれを補うために追加拠出される費用の発生による影響
- 顧客企業の業績不振、資金ショート、支払不能、倒産などに起因する売掛債権の回収遅延や回収不能によって、当社が被る損害の影響
- 富士通が売上高をあげている主な国の通貨、および富士通が資産や負債を計上している主な国の通貨と日本円との為替レートの変動により発生する為替差損益の影響(特に、日本円と、イギリスポンド、アメリカドルとの間の為替差損益の影響)